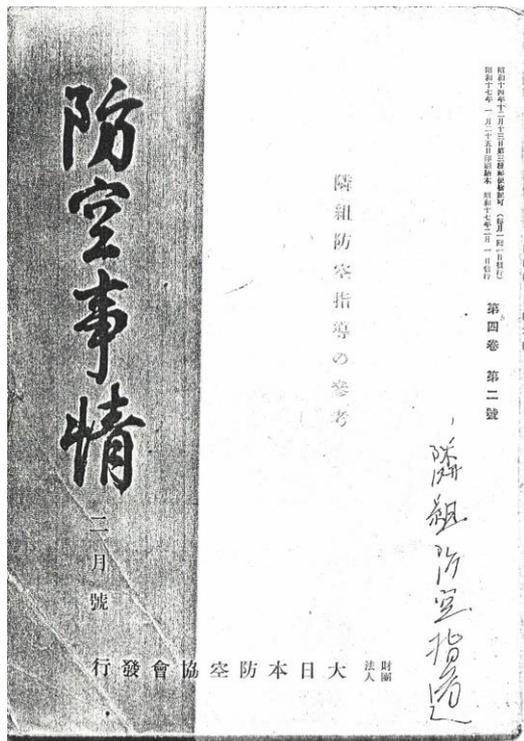


【資料紹介】空襲から身を守れ！～人々へ防空意識を根付かせた雑誌～

今回紹介するのは、戦災資料「防空事情 2月号 隣組防空指導の参考」（整理番号：戦災 390）という、財団法人大日本防空協会が昭和 17（1942）年 2 月に発行した雑誌です。

川崎市公文書館にある戦災資料は、昭和 49～52 年にかけて発行された「川崎空襲・戦災の記録」の参考資料として収集された複製資料であり、保存・公開を行っています。



この「防空事情 2月号 隣組防空指導の参考」には、一般の人々に防空意識を根付かせるために様々な特集を行っています。

目次を見てみましょう。

- | | |
|---------------|--------------------|
| ① 前頭言 | …資料課長 窪田文雄 |
| ② 防空精神を昂揚せよ | …陸軍大将 東条英機 |
| ③ 大東亜戦争と民防空 | …海軍大佐 平出英夫 |
| ④ 防空と光化学兵器 | …日本光学工業株式会社技師 鈴木良雄 |
| ⑤ 防空強化促進運動の施工 | …内務次官 湯沢三千男 |
| ⑥ 隣組防空指導の参考 | …陸軍中將 中井良太郎 |
| ⑦ 防空殉死者の弔慰援護 | …大日本防空協会 |
| ⑧ 時局防空必携 | |
| ⑨ 防空救急の実際 | …医学博士 竹村文祥 |
| ⑩ 防空学校めぐり | |
| ⑪ 後記 | |

といった内容になっています。空襲からいかに身を守るか、様々な専門分野の執筆陣によって工夫がたくさん提案されていますが、この史料の「⑥隣組防空指導の参考」の中にこのような一文があります。

「(前略) かう考へると、防空壕を掘る必要もなく、納戸及右のやうに地形を利用して、一時空襲下、幼児を收容する場所とすることができる。斯く申すと、若し、爆弾や、焼夷弾が、子供の收容所に落下したらどうすると云ふ反問が起こるが、爆弾の全弾が命中すれば、防空壕を掘つて入つて居つても結果は同じである。(後略)」

これを書いたのは当時陸軍中將の中井良太郎ですが、人々の防空意識を高めるために指導する側であっても、空襲となるとどのような状況になるかは予想がつかないと開き直っている様子が窺えます。

ここで、戦時中の日本の状況を振り返ってみましょう。

日本は第一次大戦後、航空機の急激な発達により空襲の脅威が大きくなったことから昭和12(1937)年に防空法を施行しました。大日本防空協会は、昭和14(1939)年に内務省によって設立された、防空の普及宣伝を業務とする組織です。

当時、日本の国民は防空の基礎知識すら持っていなかったようです。大日本防空協会は、当時の政府の示す防空のモデルケースを、機関誌を通じて地域の防空リーダーから末端の国民にまで浸透させることを目的としていましたが、内務省はこの方針に消極的だったよ

うです(高橋未沙「昭和戦前期における防空思想：大日本防空協会の活動を中心に」(研究発表、近現代史部会、日本史部会、第108回史学会大会報告、『史学雑誌』120巻1号、2011年)。

昭和17(1942)年4月18日、アメリカ軍機による日本本土への初めての空襲がありました。川崎市は工場なども被災し、死者34人・負傷者90人を出しました(『川崎空襲・戦災の記録(ダイジェスト版)』22頁)。さらに、ミッドウェー海戦やガダルカナル島での敗北により日本の制空権は失われてゆき、防空体制の整備が急がれるようになります。

ここで、当時の川崎市民の実際を、個人の日記から紹介します。

「(昭和十九年)十一月五日 曇 川崎へ行く。南武車中で警戒。川崎へ着くと同時に空襲警報がひびき渡る。あわてゝ駆け出して伊東屋さんへととび込み、時計を見ると十時半。十二時前解除と共に家へ行き最後の牛車の荷物をみて代体まとめて来る。邦子早く帰り、かへりは駅迄送ってくれた。(後略)」(「波多野まち子日記」 整理番号：戦災資料313)

空襲警報が鳴ったらデパートなど頑丈な建物に避難するのも当時空襲から身を守るための工夫でした。昭和19(1944)年には、警報が鳴ったら避難するという行動が当たり前であったと同時に、警報がやめば日常に戻るような、もはや警報が鳴るのが日常茶飯事になっていました。

昭和20(1945)年になると、戦禍はさらに大きくなっていきました。3月10日に東京大空襲、4月15日に川崎大空襲、5月29日に横浜大空襲がありました。

そして広島・長崎とアメリカ軍によって原爆が落とされ、昭和20年8月15日、「玉音放送」によって日本は遂に降伏を宣言しました。

今回は、2024年3月10日から開催される平和館空襲展公文書館展示でも取り上げた「防空事情 2月号 隣組防空指導の参考」の内容を紹介しました。平和館での展示は2024年5月6日まで開催しておりますので、ぜひご覧ください。

〈資料情報〉戦災資料「防空事情 2月号 隣組防空指導の参考」(整理番号：戦災390)
奥書に「昭和五十年九月福島鑄郎氏所蔵本ヲ以テ複写畢」と有り。
戦災資料「波多野まち子日記」(整理番号：戦災資料313)